

Newsletter

発行所

日本歯科色彩学会

発行人 片山伊九右衛門

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-1

廣瀬お茶の水ビル4階

クインテッセンス出版株式会社内

TEL 03-3292-3691 FAX 03-3292-3696

本会主催見学会を終えて

10月7日、本年最初の見学会が14:30から、東芝科学館で挙行された。当日、天気予報では午後からは雨とのニュースがあり、集まりを心配していましたが、やはり出席は常任理事の方ばかりでした。名誉会長の橋口先生は午前で開催された常任理事会に引き続いてお嬢様の運転で参加されました。夏期にはご入院とお聞きしましたがお元気でした。和久本名誉会員は常任理事会にはご出席いただいたが、午後から今年最初の講義でやむなくご欠席でした。

東芝科学館は川崎市にあり、科学技術の観点から未来社会の姿が描かれており、新しい文化活動の拠点として東芝が企画し、未来の夢を託することを目的に東芝が企画設立したものです。まずは玄関で案内担当グループ長の辰巳充様はじめ美人の案内嬢の出迎えを受けました。会議室でハイビジョンテレビによる社内案内がありました。

東芝は初期はマツダランプで知られる会社で、創立者田中久善氏(1799-1881)はカラクリ人形や万年時計を考案した高名な方で、精巧なカラクリ人形をDVD(Digital versatile disk)で驚きをもって拝見させていただき、さらに東芝の歴史を詳しく知ることができました。DVDの記憶容量は133分に増幅され、家庭でもビデオに代わって録画の主流になりつつあることは秋葉原電気商店街で、読み取ることができましたが、詳しい意味は今回やっと理解することができました。見せていただいたテレビ画像は5億4000万画素とか、デジタルカメラが50万画素から150万画素、私が使っているデジタルはやっと200万を越す画素ですから所詮は横網の立場から見て幼稚園児の相撲の勝ち負けであると思えました。

東芝が東京大学に納めた電気計算機は昭和29年で真空管は7000本、ダイオードが3000石を使用し、当時は高熱を発散するので冷却器の設備に苦労したことなどの説明がありました。当時の三種の神器では洗濯機は手回し絞り付きが流行で720円、当時の平均月給が5円とか、現在人は本当に贅沢に慣らされていることを痛感しました。冷蔵庫も昭和5年につくられたが実用は昭和25年ごろからだそうです。色彩コーナーも設けられ、色味の説明、明度、彩度、色相の説明など、ミノルタ発行の「色を読む話し」のように図をもって解説していました。参加者が色の専門家でしたので、もう少し詳しい説明が欲しかったのですが、科学館の主旨からみて、やむを得ないことでしょう。しかし照明コーナーにはかなりの力を注いでいました。医療コーナーでは高速ヘリカル(Hight Speed Helical)システムは血管のなかまで写すこ

とができ、いままでX線写真では判明できなかった肺ガンの発見に大きく役立っていることを実際の画像で説明を受けました。DVD装置ではブルーレーザー(400nm)で画像や音声をキャッチしていること、東芝が誇るランプでは3万Wのものが照明され60W電球が2000本とかで目も眩む明るさでした。反対に0.11Wの粟粒ランプは胃カメラに使用するなどの説明を受けました。その他、高性能のロボットで駒を回したり、いろいろの最新技術が拝見できました。とくに美人案内嬢の戸塚さんの実演でマイナス160度という、低温では比較的高い温度に位する液体窒素をお茶いれのポットからいとも簡単に取りだし、物体に振り掛けると、その物体は磁気的作用で宙に浮きました。まさにオウム真理教の麻原教祖?がみせた宙浮きはこの原理を用いたのではないかと同行の理事から冗談が出ました。超電導技術もかなり進歩し、山梨での実験が進めば東京から大阪まで1時間で行けるとのことでした。

進展するデジタル工房ではモバイル通信、電子マネー、デジタルハイパーランド、デジタルライブラリー、バーチャルリアリティ、など各種の知識が得られるようになっていました。小学生向けにはハイビジョンコーナーがあり、DVDの放送設備を自由に使わせていました。事実多くの子供達が集まるそうです。

人と科学の触れ合いである東芝科学館の見学を終え、我々が専門とする色彩学の観点からは、まだまだ歯科界に寄与できることが数多くあることを認識して、幸い雨に降られなかったことを感謝しつつ一同は現地解散しました。

今回の見学会を企画していただいた渉外部の方々および、参加者の皆様に感謝いたします。次回見学会には多くの参加を期待いたします。(I.K)

新聞からの情報

もう2月前のことですが毎日新聞に歯科用ユニットのライトの反射板について掲載がありました。抜粋してご紹介します。

「日本の中の世界一」

デンタルユニットのライトのミラーでシェア国内で約90%、全米約30%とトップを走るのが岡本硝子の製品だ。高い評価を受けるのは光源から発する熱のカット率が約8割と高いこと。反射光が歯ぐきの自然な色に見えるように調節されている。日本人医師向けには黒いひとみに適した赤みがかかった光、青いひとみの白人医師には青白さを帯びた光を発するよう膜の厚さを微妙に変えている。最近では、会議などでパソコン画面をスクリーンに映す液晶プロジェクターの反射鏡にも進出し、世界シェアの5割強を握る。

ホームページの ご案内

<http://www.jah.ne.jp/%7Ecolorlan/jacd.htm>



日本歯科色彩学会ではColorland Lab Co*の協力を得てホームページを提供しております。ぜひご覧ください。

お知らせ

日本歯科色彩学会第8回総会・学術大会のお知らせ（予報）

大会長 加藤喜郎 実行委員長 新海航一

第8回総会・学術大会の予定と内容の概略につきましてお知らせいたします。

1. 会期 : 平成12年7月8日(土)、9日(日)
2. 会場 : 日本歯科大学新潟歯学部講堂およびアイヴィホール
〒951-8580 新潟市浜浦町1-8

3. 内容

メインテーマ「新世紀歯科医学・医療を支える歯科色彩学」

特別講演（市民フォーラムを兼ねる）

1 「現代アジア人の誕生と現代日本人の形成」

馬場悠男（国立科学博物館人類研究部部長および
東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授）

2 「倭国女王卑弥呼と色彩感覚」

水野正好（奈良大学学長・文学部文化財学科教授）

シンポジウム : 2題 内容とシンポジスト（各4名程度）については未定

一般講演 : ポスター20題程度

4. 学会日程

平成12年7月8日(土)

13:00～14:30 理事会、評議員会

14:30～15:20 総会

15:30～17:30 シンポジウム1

15:30～18:00 ポスター発表

17:30～18:00 ポスター討論

18:00～19:30 懇親会

平成12年7月9日(日)

9:30～12:00 シンポジウム2

13:00～14:30 特別講演1

14:30～16:00 特別講演2

5. 演題募集日程

平成12年3月31日(金): 演題の申し込み締切 当日消印有効

4月14日(金): 演題の採択可否の通知期限

(演題の採否および発表順位は、大会長に一任してください)

5月26日(金) 抄録原稿提出締切、事前登録締切

その他、詳細に関しましては、後日改めましてご連絡する予定であります。

皆様、奮ってご参加くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

お便りコーナー

中国・全国口腔色彩科学研修会（日本歯科色彩学会後援）

上記の研修会が平成11年9月28・29日、中国江西省の省都、南昌市で行われました。南昌市はNanchang(ナンチャン)と読み、揚子江下流の南にあり、陶器で有名な景德鎮の近くに位置する人口600万人の都市です。折しも10月1日の建国50周年記念行事として中国全国がお祭り騒ぎの真っ最中で、それに間に合うようにと南昌新空港も我々到着3日前に竣工され、町の高層ビルが化粧直ししておりました。夜は遅くまで中央広場でショーが催され、無料で京劇やら雑技(サーカス)などがみられました。どんどんビルが建てられ、百貨店には世界各国の品が飾られ、景気は北京や上海だけでなく中国全国に行き渡っているようでした。まさに日本での当時のバブルそのものの活性でした。会場は大学の先生が開業して5年間で購入することができたという6階建ビルの会議室で、個人で講習会用として維持しているもので、狭いながらコンピューター用スクリーン設備もあり、ビデオからカラオケ設備まで整い、また3階には実習用陶材焼成設備一式も用意され、講演内容は全部ビデオに収録されていました。

当日参加者は地元、江西省や華南省の方が多く、江西医科大学歯学部(歯学)の先生かた始め、東京医科歯科大学での第7回学会に出席の北京の先生が数名、広州、四川、上海などからも参加がありました。出席者が延べ70名程度でしたが、これは中国の出張制度が、まず所属大学、医院に伺いをだして、認可が必要であり、色彩学を理解できる上部高官が少なく、なかなか許可が得られ難い事情があります。そこで日本歯科色彩学会後援が効を奏します。今回は私が所属する北京医科大学第二臨床医学院がこの会を主催しました。実行委員長は地元のトウ新洲医師(開業医)で、講演は明海大学留学中に色彩学で博士をとった北医大の高承志副主任助教授が色彩学の全般、私がシェードガイドについて、岡山開業の竹谷雅之先生が金属焼付ポーセレンクラウン形成歯について前夜と初日に2回ずつ講演し、本会理事の山田和伸先生が2日目を担当しました。山田先生は本会代表として、またノリタケ代表として整った美しいスライドを駆使して理論を前提に午前は講義、午後は金属焼付ポーセレンクラウンの実技を担当され見事なできでした。そして多くの参加者に感銘を与え、他地方の先生からもアンコールの声がありました。竹谷先生は懇親会では質問責めを受けていました。南昌は近くに廬山99峰が聳える名所で、5人の老人が座っているように見える五老峰などを観光しました。1年中殆ど曇りという気候とのこと、当日は雲一つない全峰を徒歩めぐりました。中国最古の大学跡もみました。

10月1日は建国50周年式典で北京天安門では50万人のショーが開催され、一般市民はシャットアウトでしたが、飛行機が宿舎の上を舞い、天安門ほか市内4カ所での深夜におよぶ仕掛け花火に圧倒された次第。運良く翌日にはミサイルや戦車の一群に出くわしたが、中国の発展する姿は圧巻でした。しかしこのよにビルが建てられ、大学が拡張されている姿をみて、発展の将来に祝福を与えながらも、日本のバブルと重なり一抹の将来への経済的な不安が感じられました。

今回は研修会であり、先方の指名講演でしたが、来年秋には研修会でなく学術大会を台湾海峡に面した海の楽園である厦門で行いますので、日本からも多数の参加を期待します。(IK)